

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価 2016年版、4.0版評価項目等 2022年11月28日現在適用 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オープンレジデンシア東区泉一丁目 新築工事	階数	地上15F
建設地	愛知県名古屋市東区泉1丁目1915番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	224 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2022年11月28日
敷地面積	815 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	430 m <sup>2</sup>	確認日	2022年11月28日
延床面積	4,849 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE1.0**

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

① 参照値	92
② 建築物の取組み	91
③ 上記+②以外のオンサイト手法	91
④ 上記+オフサイト手法	91

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	BEI=0.93 LED照明を採用し、省エネルギー性能に配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	アルミ製建具の開口部遮音性能: T-2等級 専用部屋フロアリング: LL-4.5 専用部: 断熱等級4	Q3 室外環境(敷地内) 緑地条例以上の植栽及び緑地を計画した。
LR1 エネルギー	BEI=0.93 LED照明を採用し、省エネルギー性能に配慮した。	LR3 敷地外環境 光害チェックリストの過半をみだし、敷地外環境へ配慮した。
	LR2 資源・マテリアル 省水型便器及び節水型水栓を採用し、水資源の保護に配慮した。 非躯体材料はリサイクル材を使用し、非再生性資源の使用量削減に努めた。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)オープンレジデンス東区泉一丁目 新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.9</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.4</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	<b>評価点 = 3.3</b>
<b>2. 自然共生</b>	<b>評価点 = 1.9</b>
<b>3. 循環型社会</b>	<b>評価点 = 3.4</b>

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。